

## 要旨

### 1. はじめに

2019年の世界の死因のトップ10のうち7つが非感染性疾患である。不健康なライフスタイルを改善することで、多くの病気を予防または軽減することができるかとされているが、健康的なライフスタイルを誘発するための課題は、これらの行動をどのように定義し、測定するかである。ラオスにおいても感染症や母子保健、栄養の問題に加え、非感染性疾患による問題も潜在し始めている。専門的に定義された保健行動を行うかどうかではなく、その人が健康を守ったり、増進したり、維持するためにとった行動をHealth protective behavior（予防的保健行動）といい、妥当性や信頼性が研究されてきた。そこで本研究の目的は、ラオス人学生の健康認識・健康信念・予防的保健行動の実態を明らかにすること、ラオス人学生に既存のHealth protective behavior尺度（以下：HPB尺度）が適用できるか検討すること、ラオス人学生のHPB尺度とHealth Belief Model（以下：HBM）との関連を検討することである。

### 2. 方法

チャンパサック県教員養成校の学生120名を対象に、自由記述式の質問紙調査を行い、「HPB尺度に関する項目」「健康認識・健康信念に関する項目」「健康を守るために行う3つのこと」を尋ねた。分析はSPSSによる統計分析を行った。

### 3. 結果と考察

分析の結果、健康認識は、身体的な症状だけでなく精神的な状態によっても決められているかもしれないと推察できたが、身体症状が健康認識の大部分を占めていることが明らかになった。健康信念は、身体的な症状によるものと、自身の健康の知識によって決められているものがあることが推察できた。予防的保健行動については、基本的な生活習慣が健康にとって優先度が高いと認識していることが明らかになったが、知識と行動が結びついていないことが推察でき、知識が自己の健康予防にもつながっているという認識を持たせることの重要性が示唆された。

HPB尺度は先行研究と同様にはまともならなかったが、ラオス人の予防的保健行動における構造を明らかにすることができた。内的整合性については、 $\alpha$ 信頼性係数が中程度得られたことから、一定の信頼が得られたと判断し、HPB尺度を適用できたといえる。

健康認識と健康信念を規定する要因を明らかにすることができ、また、全ての項目がHBMの変数になるのではなく、予防的保健行動の種類によって関係する変数が異なるということが明らかになった。

### 4. 結論

ラオス人学生の健康認識と健康信念、どのような予防的保健行動をとっているのか明らかにすることができた。また、それらの予防的保健行動と健康認識・健康信念の関連性を明らかにすることができ、部分的にHBMに当てはめることができた。本研究は、調査内容、地域、対象が限られており、検討事項も残されている。しかし、ラオスにおける保健行動の解明に向けた貴重なデータが得られたといえる。

キーワード：教員養成校の学生 予防的保健行動 ヘルスビリーフモデル ラオス